東計電算
Acronis Cyber Protect Cloudで顧客の業務システム用仮想サーバー約100台をフルバックアップ

Acronis Cyber Protect Cloudは大量の仮想サーバーでもたやすく導入でき、分かりやすい管理画面で慣れていない担当者でも簡単にバックアップ・管理できます。

事業の概要

株式会社東計電算（以下、東計電算）は1970年に設立された神奈川県川崎市に本社を置く、システムインテグレーターです。同社は、「コンピュータとニーズの仲介役である」をモットーに、3つの分野をコアビジネスに事業を展開しています。第1は、業種別、業務別のITサービスによるソリューションの提供です。組織を業種別に構成するとともに、通販、物流、不動産管理などを軸に中堅企業向けを中心に業務システムを開発しています。第2は、情報処理のアウトソーシング・ビジネスです。インターネットの発展で、わずかな通信コストで情報の活用が可能になる一方、コンピュータの能力が大きくなる中で、運用技術への要求も大きくなっています。そこで、サーバーもしくはホストコンピュータを顧客企業から受託し、高度な運用技術でITサービスを行っています。第3は、高いセキュリティーを確保した、安定的に稼働するシステム基盤の提供です。システムは川崎市内の２つのデータセンターで運用され、運用部門は顧客企業の情報を守るために24時間365日最新のIT技術と設備を駆使して対応しています。

ビジネス上の課題

東計電算では開発した顧客企業の業務システムを自社のデータセンターで預かり、そのほとんどを仮想サーバーで運用しています。そして、システムのイメージバックアップは仮想マシンに付属するバックアップシステムを使って、仮想アプライアンスに取ってきました。「数年前に仮想マシンベンダーが新バージョンでのバックアップ機能の提供終了を発表しました。また画面を表示するフラッシュプレイヤーも2020年末でサポートが終わるため、新しいバックアップ製品に切り替える必要が出てきました」と東計電算 システム運用部 係長 宮本 一宏氏は語ります。

東計電算では、それまで利用していたバックアップシステムと同じレベルで、1日1回バックアップができ、2〜3世代分のバックアップデータの管理が可能なことを要件として決め、バックアップ製品の選定を進めていきました。その過程でいくつかの製品が候補に挙がったが、ハードウェアも含めた大規模なバックアップシステムで、導入時にベンダーが構築を行わなければならない製品は導入に手間がかかるため、除外しました。そして、最終的に、アクロニスの「Acronis Cyber Protect Cloud」の導入を決めました。

業種・業態
システムインテグレーター

主な課題
- 提供終了のバックアップ機能に替わる代替製品の選定
- イメージバックアップの確実な実行の実現
- 長時間にわたるバックアップ時間の短縮化

主な要件
- 1日1回イメージバックバックアップが可能なこと
- 2〜3世代分のバックアップ管理が可能なこと
- ソフトウェアベースで導入が簡単にできること

ITインフラ
- 業務システム用仮想サーバー約100台

主なメリット
- 完全なイメージバックアップで、リカバリー対応の必要がなくなり、業務負荷が軽減され、他の業務に充当できるようになった
- 1〜2時間でバックアップが完了することで、システムのパフォーマンス悪化が解消された
- 他の運用業務との連携が可能になり、運用監視業務の負荷軽減が実現された

Copyright © 2002-2021 Acronis International GmbH.

ソリューション

東計電算がAcronis Cyber Protect Cloudを選んだのは、導入作業が簡単で、作業に負荷がかからず、バックアップがとれるようになるからでした。その上で、評価したのがアクロニス製品の使いやすさでした。「10年近く前に物理サーバーで試したAcronis Backup & Recoveryはとても使いやすく、経験がない社員でも1回でリストアに成功できたほど扱いも簡単でした。そこで、顧客企業からイメージバックアップをとって欲しいと要請があった時に採用し、10数台の物理サーバーへ導入していました。その経験があったので、Acronis Cyber Protect Cloudは使いやすいと考えていました」と東測計電算 システム運用部 係長 齋藤 亘氏は振り返ります。

そして、東計電算では2020年秋、2週間ほどの検証を行い、問題なく移行できたことから、バックアップシステムをAcronis Cyber Protect Cloudへの切り替えを開始、2021年初めには計画していた100台あまりの仮想マシンへの導入を完了しました。「運用上の都合で、多少時間はかかりましたが、アクロニスの管理サーバーから直接配信して設定するだけでよいので、スムーズに移行することができました」（宮本氏）。

運用開始から現在まで、仮想サーバーのイメージバックアップは順調に取得することができています。以前に利用していたバックアップシステムはイメージバックアップに失敗することも多く、その度にリカバリー作業を行っていました。しかし、Acronis Cyber Protect Cloudでは失敗はなくなり、問題なくバックアップできるようになりました。またバックアップ時間も、データ容量が非常に大きい仮想サーバーでは12時間ほどかかっていましたが、1～2時間で完了するようになり、サーバーにかかる負荷も小さくなりました。また、運用面では以前のバックアップシステムは、操作できる運用担当者が限られていましたが、Acronis Cyber Protect Cloudは操作も簡単で、他の監視業務と連携して運用できるため、多くの担当者が扱うことができるようになりました。

「1～2年かけて、運用中の仮想サーバー3000台あまりのバックアップをCyber Protect Cloudに切り替えて、一元管理し、運用負荷を軽減していきます」

株式会社東計電算
システム運用部 係長
齋藤 亘 氏

「Acronis製品で、顧客企業の現場で運用中の物理サーバーのバックアップを東計電算で取る新たなサービスを検討していきます」

株式会社東計電算
システム運用部 係長
宮本 一宏 氏

効果と展望

バックアップの失敗がほとんどなくなったことで、リカバリーにかける時間が不要になり、運用面では大きな効果が生まれています。「12時間もかかるバックアップが失敗してしまうと、それをやり直すだけで、下手をすると1日、2日かかっていました。それがなくなったので、運用担当者はその時間をほかの業務にあてることができるようになりました」（宮本氏）。

バックアップに12時間もかかると、夜間だけでなく、昼間の業務時間中もシステムがバックアップを取得していることが考えられ、レスポンスが悪化していた可能性があります。実際、以前バックアップに失敗した時に、リカバリーのために様々な操作をするので、レスポンスが異常に悪化して、ユーザーからクレームが来たこともありました。しかし、Acronis Cyber Protect Cloudになってからは、そうしたクレームは一切なくなりました。「お客様からはバックアップの失敗もなく、うまくとれていますねと評価されています。以前はデータベースの大きなファイルのバックアップが取得できず、リカバリーができないこともありました。そういうこともなくなり、リカバリーの手間は格段に減りました」（齋藤氏）。

東計電算では、今後1～2年かけて、3,000 OSほどある仮想サーバーのバックアップシステムをAcronis Cyber Protect Cloudに移行していく計画です。これによって、東計電算が開発し、データセンターで運用している80%あまりのシステムのバックアップがAcronis Cyber Protect Cloudに切り替わります。「導入対象の仮想サーバー数は多いのですが、コスト面での負担はさほど大きくないので助かります。バックアップシステムは統一した方が管理しやすいので、できる限り切り替えて、Acronis Cyber Protect Cloudの管理サーバーで統合的に管理していきます」（宮本氏）。

東計電算では、現在自社のデータセンター内でバックアップを行うだけですが、今後、顧客企業の現場で運用されている物理サーバーについて、Acronis Cyber Protect Cloudでバックアップを取得し、同社のデータセンターで管理するサービスの提案も視野に入れながら、取り組みを進めていく考えです。

Acronis

詳細はwww.acronis.comをご確認ください。

Copyright © 2002-2021 Acronis International GmbH. All rights reserved. AcronisおよびAcronisロゴはAcronis International GmbHの登録商標または商標です。Windowsは米国 Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。記載されているその他の名称は、各所有者の商標または登録商標である可能性があり、そのような可能性を考慮して扱う必要があります。技術的な変更および図との差異が生じる可能性があり、誤りが含まれている可能性があります。製品仕様は改良のため、予告なく変更になる場合があります。2021-06